

巻頭のことば

経済学部長
大野 拓行

香川大学経済学部は大正12年、官立高松高等商業学校として創立され、以来90年に及ぶ歴史を重ねてまいりました。平成25年11月30日には、又信会との共催による、創立90周年記念式典を盛大に挙行し、100周年に向けてたゆまない努力を積み重ねていくという決意を新たにいたしました。

本誌は、本学部教員の理解と協力により、本学部の創立90周年記念行事の一環として、ここに発刊されるものであります。

国立大学は平成16年に法人化され、経済学部も「国立大学法人香川大学経済学部」となりました。法人化当初においては、大学構成員にとって、法人化の実態は、曖昧模糊としたものでした。しかし、国立大学法人法により、大学は中期目標期間（6年）ごとに評価され、また教員個人も、教育、研究、管理運営、社会貢献の4分野において評価されるようになり、大学の雰囲気は確実に変化してまいりました。

さらに、急速な少子高齢化、グローバル化による競争激化など、社会の急激な変化に対応するために、文部科学省により、各国立大学が担うべき社会的な役割を明らかにした「ミッションの再定義」が平成26年3月に公表されました。

「ミッションの再定義」は第3期中期目標期間（平成28～33年度）において各大学が目指す姿を展望し、機能強化に取り組むための出発点として位置づけられるもので、各大学にはそれぞれの専門分野の強みや特色を伸ばし、社会的な責務を果たしていくための戦略が求められています。

経済学部も、現在、「ミッションの再定義」に基づき、平成30年代前半を展望した学部・大学院のあるべき姿について議論の渦中にあります。

このような、経済学部を取り巻く厳しい状況の中にあっても、研究は大学の最も重要な役割の一つであることは言うまでもありません。日々の膨大な職務に加え、学部・大学院改革に努力を傾注しながら、さらに研究時間を捻出し、その成果の一部を創立 90 周年記念号として、ここに取り纏められた喜びをともに分かち合って頂ければ幸甚です。

平成 27 年 2 月 3 日